マスタークラス

2019年10月12日（土）14:00〜17:50　アクロス福岡 練習室2〜5（地下2F）・円形ホール（1F）
　　　　10月13日（日）10:00〜15:50　アクロス福岡 練習室2〜4（地下2F）・円形ホール（1F）

講師：波多野 睦美（メゾソプラノ）
　　　太田　光子（リコーダー）
　　　前田 りり子（フラウトトラヴェルソ）
　　　斎藤　秀範（バロックトランペット）
　　　山本　　徹　（バロックチェロ）
　　　西山 まりえ（チェンバロ/バロックハープ）＊

＊台風による交通遮断のため中止

＜タイムテーブル＞

	練習室2	練習室3	練習室4	練習室5	円形ホール
講師	**波多野 睦美**	**前田 りり子**	**太田 光子**	**山本　徹**	**三宮　正満**
	声楽	**フラウト・トラヴェルソ**	**リコーダー**	**バロックチェロ**	**オーボエ**
14:00-14:50	**栗林 孝次** 後藤 朋子	——	——	——	——
15:00-15:50	**芳賀 史江** 坂田 ますみ	**南方 佳子** 中野 洋子	**E　高橋 真千代、小川 伊作、河本 基實、渡辺 久仁子**	——	——
16:00-16:50	**安本 ゆか** 加藤 麻衣子	**E♪倉田 輝美、山田 慧、西野 晟一朗**	**野田 よう子**	**松江 雄二**	**柴　滋**
17:00-17:50	**森山 紀子** 大森 美樹	**♪　橘　直貴** 太田 耕平	**末松 奈津子** 河本 基實	**♪ 上野 恵理也**	——

	練習室2			練習室3		練習室4	円形ホール
講師	**前田 りり子**	**三宮　正満**	**西山 まりえ**	**太田 光子**	**波多野　睦美**	**山本　徹**	**斎藤　秀範**
	フラウト・トラヴェル	**オーボエ**	**チェンバロ/ハープ**	**リコーダー**	**声楽**	**バロックチェロ**	**トランペット**
10:00-10:50	宮本 修						
11:00-11:50	**♪　田中 有史**			**E ♪　山下悟、山下伸江**			渡邊　裕介
12:00-12:50	**明石拓爾**、田中有史						
14:00-14:50				**中山 美智子** 太田 耕平			
15:00-15:50				**E　松本 奈菜、大年 真理子** 中川 岳		**辛島 慎一**	

E…アンサンブルレッスン、♪…講師との共演コース

今年の古楽祭でも、トップレベルの古楽アーティストを講師にお迎えして、マスタークラスが開催されました。そのうち幾つかをご紹介しましょう。

マスタークラスの初日、太田光子先生の部屋ではちょうどアンサンブルのレッスンが行われ、高橋さん（リコーダー）、小川さん（ガンバ）、河本さん（ガンバ）、渡辺さん（チェンバロ）がテレマンのトリオソナタを演奏されていました。1楽章は3拍子の前向きな曲で、リコーダーのソロにガンバ2台が呼応しながら進みます。テンポが速いためリコーダー奏者としては「どこで息継ぎすべきか」という課題等がありますが、太田先生は「どうすれば『より音楽的に』、『合わせやすく』、かつ『楽に』なるか」という観点から助言をされていました。また、受講生からの演奏表現についての質問に対して「こういう可能性もある」と提案され、「両方のやり方を試してみましょう」と仰り、受講生の目線にたってコミュニケーションをされていたのが印象的でした。緩徐楽章では、テンポはゆっくりでも、クレッシェンドをつけたりニュアンスをつけて進めることで「方向性」を出すことができる、その中で各楽器が「自分の言葉を語る」ことが大切、というアドバイスをされました。聴講生の方々も多くいらっしゃり、熱気の中で、アンサンブルの楽しさと奥深さを共有できたようなひとときでした。

山本徹先生の部屋では、上野さん（リコーダー）が古楽ステージでの「講師との共演」に向けて、J. ルイエ・ド・ガンのリコーダーソナタを演奏されていました。上野さんからの質問で、装飾をどのように足していくかが課題となっており、山本先生は「最初から装飾を複雑にすると、少しずつ装飾を増やしていくことが難しくなる」ため、「事前に装飾のパターンを色々と考えておき、書き留めて整理する」こと、その際には「もとの楽譜の骨組部分や、バスとの関係が明確に区別できるように書き留めること」を推奨されていました。書いてある装飾が例えさんざん練習したものであっても「常にフレッシュな気持ちで演奏する」（=「死んだ装飾」にしない、山本先生）ことも重要ということです。装飾の増やし方にも慣習があり、「音を増やす」のがイタリア風、「音自体に飾りをつける」のがフランス風なのだそうです。講習の時間があっという間に感じられるほど充実した内容で、初めて受講された上野さんも「大変勉強になった」と仰っていました。

翌日の古楽ステージ「講師との共演」コーナーで出演された上野さんと山本先生のデュオ演奏は、マスタークラスの翌日とは思えないほどの完成度で、リコーダーとチェロの音色が美しく語り合い、会場に良く響き、聴衆のみなさんも聴き入っていました。マスタークラスの威力を実感するとともに、プロ、アマチュアの垣根を越えて古楽の魅力を共有することの価値を体感できたひとときでした。

■受講生・聴講生の声（アンケートより）

・音楽の作り方、楽器運指など、貴重な情報をいただきました。［受講生］

・マスタークラスが大変有意義でした。［受講生］

・お陰様でよいレッスンを受けさせていただきました。ありがとうございます！［受講生］

・コンサートや古楽講座のみならず、すばらしい講師の先生のマスタークラスの聴講と充実した音楽祭でした。［聴講生］

古楽セミナー　< 合唱コース >

日程：2019年10月12日（土）14:00-18:00
会場：アクロス福岡 練習室1（B2F）
講師：安積道也
課題曲：ネウマ譜で歌うグレゴリオ聖歌　～「主の昇天」：音楽化された昇天シーン～
「主の昇天祭」のグレゴリオ聖歌より
入祭唱：Viri Galilaei、アレルヤ唱：Alleluia、奉納唱：Ascendit Deus、拝領唱：Psallite Domino,
主の祈り：Pater noster
参加者：
［ソプラノ］井上俊江、岩本あづさ、家中素代、内田幸子、大貫咲織、小川京子、賀川尚子、木下七海、久保京子、黒田雅子、古賀晶子、鈴木恵、瀬部香織、高尾由美、田中維子、田上由美子、高橋彰子、徳森理香、中村直子、中山美智子、西谷奈菜、林田一枝、平田素子、平岡周子、広瀬恭子、福田麻希子、堀智美、松村芽依、松本菜穂子、三久保佐和子、宮崎清香、宮田栄子、宮田ゆかり、村山文子、森山滋子、山下美和
［アルト］家中貴美恵、池田尚子、井上秀子、岩熊真由美、保井淳子、大谷地睦美、大山千恵、川村聖子、齋藤由美子、坂田ますみ、佐々木久美子、財津花津美、清水陽子、田中千佳、田中美穂、野田智子、前田明子、松村抄子、山本美知子、山本洋子
［テナー］井上康博、宮原淳
［バス］松尾孔明、松村俊哉、柳裕哉

毎年人気で盛況がつづく合唱セミナーですが、今回のテーマは一昨年から続いて「ネウマ譜で歌うグレゴリオ聖歌」でした。安積先生によると、ネウマ譜とは「テキストをどのように読むか、という朗唱芸術の一端として発展」したもので、ネウマを読み解きながら、音と音をなめらかにつなぎ、アーティキュレーションを付けていきます。ピッチは場合によって高くしたり低くしたりし、例えば夜明け前に歌う場合などは低めに設定するなど、時間帯や曲の性質、奏者の状態などによって変化させるそうです。ネウマの複雑な記号を見ていると実際に表現するのが難しそうに感じますが、安積先生の指揮（手の動き）はネウマの動きを視覚的に現しているようで歌いやすそうです。60名近い参加者が集まっての歌声が、セミナー開始後30分も経つと「全体の『リズムの揺らぎ』が揃ってきた」と褒められていました。

これまで6年間、合唱セミナーを率いて下さった安積先生ですが、来年からドイツに赴任されることになり、古楽祭での定期的なご指導は今回でいったん終了となります。これまでの安積先生の情熱に溢れる緻密なご指導に感謝するとともに、今後益々の御活躍とご家族のご多幸を祈念し、将来にまた福岡でお目にかかれる機会を待ちたいと思います。

■受講生の声（アンケートより）
・グレゴリオの背景、歴史もお話が聞けて興味深かったです。こんな充実したセミナーが福岡でも聞けてとても嬉しく思いました。
・単旋律の豊かな音楽性、表現の世界を味わえました。
・40年前に部活動でグレゴリオ聖歌をしていました。（中略）３年間、合唱セミナーに参加してレパートリーが増え、内容も改めて３回伺い、身に染みました。日常で復習しながらこの先40年で歌えるようにしていきたいです。有難うございました。

＜ 古楽アンサンブル コース ＞

日程：2019年10月13日（日）13:30-17:30
会場：アクロス福岡 練習室1（B2F）
講師：岩田耕作
課題曲：M.A. シャルパンティエ：花の冠（La couronne de fleurs, H.486）より
序曲/花のアリア/羊飼いたちの行進曲/バラのアリアと合唱/羊飼いたちを戦いへといざなうプレリュード/
アマランサスのレシと合唱/森の精のレシと合唱/メヌエット/花とパンのアリア/羊飼いたちと羊飼いの娘たち/
二重唱と合唱　※言語：仏語　※ピッチ：415hz

受講者：［ヴァイオリン］岩田悠花、小川久美、樫原典子、
細川美津子、諸鹿ちとせ［チェロ］城輝昭
［ガンバ］川田直子［リュート］宮園智子、武藤彰良
［フルート］藤原みか、山崎由紀子
［リコーダー］大中スガ子、中村晶子
［ファゴット］内田ゆか
［チェンバロ］財津花津美、下川れいこ、西村真紀、
西山如香
［ソプラノ］大貫咲織、酒井寿喜、田中美和子、
芳賀史江、福田麻希子、藤原佐和子、松本奈菜
［アルト］平田智菜　［テナー］長野公宣
［バス］梶原捷聖

＜古楽ステージ（10月14日）での演奏風景＞

古楽ステージ【第1部】

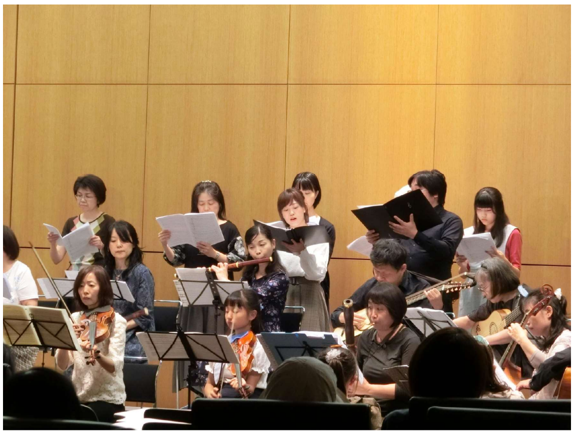
日時：2019年10月13日（日） 12:00-15:00
会場：アクロス福岡コミュニケーションエリア（1F）

出演（グループ名）：
サラスヴァティー
宮本修
Âme
Duo FUMICA
La 山猫
Nagano Band
吾亦紅（ワレモコウ）
上野恵理也&山本徹先生
田中有史&前田りり子先生
Poco a poco
河本基實
Okame y Hyotto'co
リトルネッロ
山下悟、山下伸江&太田光子先生
西野 晟一朗、山田慧&前田りり子先生

古楽ステージ【第2部】

日時：2019年10月14日（月・祝） 10:30-12:30
会場：アクロス福岡 国際会議場（4F）
出演（グループ名）：

オルケスタ・デ・ピコ
Die Zauberblockfloeten
コンソート出島
山田夕子
学びすと春日リコーダーアンサンブル
橘直貴&前田りり子先生
あくたリコーダーアンサンブル
リコーダートリオ・リラ
福岡リコーダーオーケストラ
ハルモニーセレスト合奏団
福岡祝祭アンサンブル



古楽ステージ第2部のオープニングを飾ったのは、古楽祭でもおなじみの「オルケスタ・デ・ピコ」の皆さん。大坪先生の指揮のもと、音域の異なる7名のリコーダー奏者によってウォーロックの舞踊組曲が取り上げられました。イギリスらしい旋律が奏でられ、田園風景が目の前に浮かぶようであったり、テンポが速まって疾走感あふれる箇所があったりと飽きさせず、司会の左座さんからも「オープニングにふさわしい」と紹介されるとおり、力強く華やかな演奏でした。

その後もリコーダーの演奏が続き、「Die Zauberblockfloeten」はバッハのトリオソナタをリコーダー3名で演奏、各声部の移り変わりを際立たせていました。「コンソート出島」は小品を四曲演奏され、16名での息の合った明るいハーモニーを響かせていました。山田夕子さんは今回はルネサンスリコーダーを披露され、伸びやかで表現豊かな演奏は、まるで独唱を聴いているかのようでした。共演の山本先生（チェンバロ）の通奏低音は優雅で、装飾音も美しいものでした。

本日の「講師との共演コース」枠で演奏されたのは、ガンバの橘さんでした。前田りり子先生、太田耕平さん（リュート）との共演という大変贅沢な組み合せで、最初の第一音から古楽器の芳醇な響きが空間に広がり、それぞれの音色の美しさや調和感を堪能できる時間でした。橘さんは他の楽器をとてもよく聴きながら演奏されており、昨年の古楽祭からさらに研鑽を積まれて来たことを感じさせました。会場の聴衆の皆さんも聞き入っており、ひときわ大きな拍手が送られていました。古楽祭期間中におけるプロによる指導の成果や、プロとの共演の意義を実感できたひとときでもありました。

プログラム最後は「福岡祝祭アンサンブル」による古楽セミナー（アンサンブル）の成果発表で、シャルパンティエのオペラ「花の冠」より11曲が披露されました。2日間という短期間での練習にもかかわらず、全体的によく調和しており、こちらも岩田先生のご指導の成果が伺えました。歌は独唱、二重唱、そして合唱が美しく響いており、器楽についてはベテランのみならず、小さなお子さんも混じって演奏していたのが印象的でした。

締めくくりは古楽祭恒例の会場全体での合唱です。今回はガストルディ（c.1550-c.1622）による”L'Innamorato”が取り上げられ、会場の皆さんにも楽譜が配られました。三番目の歌詞は「♪さあ、うたおう　ほがらかに…」と日本語で声を合わせ、楽しい時間が終幕となりました。